

5. とうもろこし

<飼料用>

(1) ドリーナ (系統名 PH2301) 1987年

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輪第26号

来歴 本品種は、アメリカのバイオニア社(独と共同)が育成したもので、ホクレン農業協同組合連合会が導入し、1984年以降「PH2301」の系統名で各種の試験を行い、1987年に優良品種となった。三系交配一代雑種で構成系統名は不明である。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「C535」と同程度かやや遅く、収穫熟度は「C535」並、総体の乾物率は「C535」並かやや高いが、「ワセホマレ」よりはやや低い。

2. 初期生育は「C535」並かやや優り、耐倒伏性は「C535」とほぼ同程度である。
3. 稈長は「C535」並かやや高く、着穂高はやや高い。
4. すず紋病抵抗性は「C535」並に弱く、こま葉枯病抵抗性は「C535」よりやや弱い。
5. TDN収量は「C535」より高いが、雌穂収量が低いため乾物中TDNは1%程度低い。

栽培適地と奨励態度

十勝、網走、道北(山麓、沿海を除く)、道央北部、根釧内陸地帯を適地とし、栽培上の注意は、早生品種一般に準じて栽培できるが、すず紋病の発生軽減のため適正な肥培管理を行う。また、「ワセホマレ」に比べて発芽が遅く、初期生育が劣るので、肥料やけや初期雑草の対策を十分に行う。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	ドリーナ	1.9	8.5	16.8	黄中	1,238	886	105	26.4	71.5	1984~1986
	C535	2.0	8.5	17.9	黄中	1,159	842	100	25.9	72.7	
	ワセホマレ	1.3	8.4	38.0	黄中~後	1,040	761	90	28.6	73.2	
北見農試	ドリーナ	2.2	8.6	0	黄中~後	1,386	984	102	28.0	71.0	1984~1986
	C535	2.7	8.6	0.7	黄中~後	1,350	966	100	26.2	71.5	
	ワセホマレ	1.2	8.5	0.7	黄後~完	1,336	963	100	29.0	72.0	
天北農試	ドリーナ	(3.4)	8.16	30.3	糊後	1,105	775	105	25.0	69.4	1984~1986
	C535	(3.7)	8.16	24.6	糊後	1,041	741	100	25.0	70.5	
	ワセホマレ	(3.0)	8.15	17.8	糊後~黄初	1,001	720	97	26.9	71.5	
根釧農試	ドリーナ	3.0	8.19	49.3	糊後~黄初	1,206	845	104	25.8	69.8	1984~1986
	C535	2.8	8.17	51.0	黄初	1,140	813	100	25.3	71.1	
	ワセホマレ	3.0	8.17	37.0	黄初	996	704	87	24.7	70.5	

注) 初期生育は1:良~5:否で示し、以下同様である。()は1985年の成績。

参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励並びに指導参考事項, 56-58(1987)。

(2) JX47 (系統名 SH3097) 1987年

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輪第27号

来歴 本品種は、アメリカのJacques Seed社が育成したもので、雪印種苗株式会社が導入し、1984年から「SH3097」の系統名で各種の試験を行い、1987年に優良品種となった。テント種×テント種の単交配一代雑種で構成系統は不明である。

特性の概要

1. 中生の晩に属する。絹糸抽出期は「バッファロー」より1~2日遅い。発芽や初期生育は「バッファロー」並かやや劣り、稈長や着穂高は「バッファロー」よりやや低く、耐倒伏性は同程度である。
2. 乾物収量やTDN収量はともに「ホクユウ」より優り、「バッファロー」と同等かやや優る。
3. 乾物中のTDNは「ホクユウ」や「バッファロー」より高く、総体の乾物率は「ホクユウ」や「バッファロー」とほぼ同程度である。

4. すず紋病抵抗性は「ホクユウ」や「バッファロー」並、ごま葉枯病抵抗性は「ホクユウ」や「バッファロー」よりやや強い。

栽培適地と奨励態度
道央及び道南地域に適応し、栽培上の注意は一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
中央農試	J X 4 7	3.1	8.6	33.4	黄中後	1,637	1,195	104	32.3	72.9	1984~1986
	ホクユウ	1.7	8.5	47.9	黄後	1,472	1,035	91	29.7	70.4	
	バッファロー	2.5	8.5	33.8	黄中後	1,575	1,137	100	31.5	72.2	
滝川畜試	J X 4 7	2.2	8.8	5.9	黄中	1,830	1,344	108	30.9	73.5	1986
	ホクユウ	2.0	8.10	8.8	黄中	1,844	1,292	104	29.9	70.1	
	バッファロー	1.5	8.8	14.8	黄中	1,716	1,246	100	30.2	72.7	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励ならびに指導参考事項, 58-60(1987)。

(3) コスタル (原名 コスタル) 1987年
登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸第28号

「P3732」よりやや劣る。
2. 耐倒伏性は「P3715」並で「P3732」よりやや劣り、稈長及び着雌穂高は両品種よりも高い。
3. 乾物・TDN収量とも「P3715」や「P3732」より若干優り、乾物中のTDNは両品種よりやや低い。総体の乾物率は両品種よりやや高い。
4. すず紋病抵抗性とごま葉枯病抵抗性は「P3715」や「P3732」並である。

来歴 本品種は、アメリカのアスグロシード社が育成し、北海製缶(株)が導入したもので、1984年以降原名のまま各種の試験を行い、1987年に優良品種となった。三系交配の一代雑種で構成系統は不明である。

特性概要

1. 晩生の早に属する。絹糸抽出期は「P3715」並で「P3732」よりやや遅い。初期生育は「P3715」より優り、

栽培適地と奨励態度

道央(北部を除く)及び道南地域を適地とし、栽培上の注意は、一般の栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	コスタル	2.3	8.12	0.2	黄後	1,758	1,262	103	30.7	71.8	1984~1986
	P 3 7 1 5	2.3	8.12	0.6	黄後	1,578	1,144	94	28.4	72.5	
	P 3 7 3 2	2.0	8.10	0.2	黄後	1,678	1,221	100	30.5	72.8	
中央農試	コスタル	3.1	8.9	33.3	黄中	1,753	1,263	102	28.8	72.0	1984~1986
	P 3 7 1 5	3.3	8.10	33.4	黄後	1,617	1,167	94	27.5	72.2	
	P 3 7 3 2	2.7	8.8	33.1	黄後	1,708	1,237	100	27.5	72.5	
滝川畜試	コスタル	2.5	8.12	8.1	黄中	1,927	1,364	101	27.2	70.8	1984~1986
	P 3 7 1 5	2.8	8.12	14.8	黄初	1,826	1,317	97	26.5	72.2	
	P 3 7 3 2	1.8	8.11	0.0	黄中	1,884	1,356	100	28.6	72.0	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励ならびに指導参考事項, 60-61(1987)。

(4) キタユタカ (系統名 北交42号) 1988年
登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 北海道交第19号: (農水省) とうもろこし農林交29号: (種苗法) 第2040号

来歴 本品種は、農林水産省北海道農業試験場が「W182EHt×Pa70-5」を種子親とし、「CM91×914-2」を花粉親として、1980年に育成したデント種×デント種の複交配一代雑種で、その後各種の試験を行い、1988年に

優良品種となった。

特性概要

1. 発芽は良好で、初期生育は「ホクユウ」よりやや劣るが「バッファロー」より優る。
2. 中生種に属する。絹糸抽出期は「ホクユウ」や「バッファロー」より1日早く、収穫時の熟度は「ホクユウ」並かやや遅く、「バッファロー」と同程度か僅かに早い。総体の乾物率は両品種より低い。
3. 稈長は「ホクユウ」や「バッファロー」より低く、着雌穂高は「ホクユウ」並かやや高く、「バッファロー」よりやや低い。

4. 耐倒伏性は「ホクユウ」より明らかに優るが、「バッファロー」よりやや劣る。
5. 乾物・TDN収量とも「ホクユウ」より優れ、「バッファロー」並かやや優れる。乾物中TDNは「ホクユウ」より高く、「バッファロー」並である。
6. すず紋病抵抗性は「バッファロー」並で、ごま葉枯病抵抗性は「ホクユウ」や「バッファロー」より強い。

栽培適地と奨励態度

道央及び道南地域に適する。栽培上の注意は、一般の栽培に準ずるが、すず紋病の多発が予想される地帯では発生に留意する。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	キタユタカ	1.9	8.9	20.2	黄初	1,518	1,085	101	29.8	71.5	1981~1987
	ホクユウ	1.2	8.9	34.7	黄後	1,541	1,075	100	32.6	69.8	
	バッファロー	2.2	8.10	16.2	黄初	1,470	1,058	98	32.1	72.0	
中央農試	キタユタカ	1.7	8.5	39.6	黄後	1,626	1,148	112	26.5	70.7	1985~1987
	ホクユウ	1.9	8.7	55.5	黄後	1,476	1,027	100	27.7	69.6	
	バッファロー	2.3	8.7	36.4	黄中	1,602	1,140	111	29.2	71.1	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励ならびに指導参考事項, 41-43(1988)。

(5) 3790 (系統名 PH3305) 1988年

登録番号: (北海道)とうもろこし(飼)準輪第29号

来歴 本品種は、アメリカのバイオニア種子会社が育成し、ホクレン農業協同組合連合会が導入したもので、1985年から道内で各種の試験を行い、1988年に優良品種になった。デント種×デント種の一代雑種で構成系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽及び初期生育は「バッファロー」並で、稈長もほぼ同等で、着雌穂高は「バッファロー」より高い。

2. 中生の中に属する。絹糸抽出期は「バッファロー」より2日程度遅く、収穫時の熟度と総体の乾物率は「バッファロー」並である。
3. 耐倒伏性は「バッファロー」よりやや強く、すず紋病抵抗性は「バッファロー」並かやや強く、ごま葉枯病抵抗性は同等である。
4. 乾物・TDN収量とも「バッファロー」より優り、乾物中のTDNは同等である。

栽培適地と奨励態度

道央及び道南地域に適する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	3790	1.8	8.9	3.7	黄後	1,650	1,190	104	29.4	72.1	1985~1987
	バッファロー	1.9	8.8	6.0	黄後	1,605	1,147	100	30.4	71.4	
	ホクユウ	1.7	8.8	32.0	黄後	1,492	1,046	91	29.2	70.1	
中央農試	3790	2.3	8.7	34.4	黄後	1,820	1,309	115	29.0	72.3	1985~1987
	バッファロー	2.5	8.7	36.4	黄中	1,602	1,140	100	29.2	71.1	
	ホクユウ	1.9	8.7	55.5	黄中~後	1,476	1,026	90	27.8	69.9	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 61-63(1988)。

(6) O's Gold 2570 (原名 O's Gold2570) 1988年
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸第
30号

来歴 本品種はアメリカのアスグロシード社が育成し、北海道製缶(株)が導入し1985年から各種の試験を行い、1988年に優良品種となったものである。三系交配一代雑種で、その構成系統名は不明である。

特性概要

1. 初期生育は「P3390」や「P3715」よりやや劣り、
稈長及び着雌穂高は両品種よりも高い。

2. 晩生の晩に属する。絹糸抽出期は「P3390」と同程度で、収穫時の熟度は「P3390」と同程度かやや遅く、
総体の乾物率もやや低い。
3. 耐倒伏性は「P3390」並で「P3715」より劣り、
すす紋病抵抗性とこま葉枯病抵抗性は「P3715」と同様に強い。
4. 乾物・TDN収量は「P3390」や「P3715」より高いが、
乾物中TDNは両品種より低い。

栽培適地と奨励態度

道央(北部を除く)及び道南地域の気象条件の良い地帯に適する。栽培上の注意は、一般の栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	O's Gold 2570	2.3	8.19	31.7	黄初	2,064	1,355	105	24.9	68.2	1985~1987
	P 3 3 9 0	2.3	8.20	21.0	黄初	1,829	1,290	100	24.3	70.5	
	P 3 7 1 5	2.1	8.14	11.4	黄後	1,655	1,191	92	26.6	72.0	
中央農試	O's Gold 2570	3.2	8.17	39.6	黄初~中	2,093	1,449	101	24.9	41.1	1985~1987
	P 3 3 9 0	3.0	8.17	33.0	黄初~中	2,032	1,432	100	26.9	46.0	
	P 3 7 1 5	3.0	8.12	34.8	黄中~後	1,619	1,208	84	26.4	49.3	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 65-66(1988)。

(7) ロイヤルデント105T (系統名 T1200) 1988年
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸第
31号

来歴 本品種は、アメリカのトロージャン社が育成し、
タキイ種苗(株)が導入したもので、1985年から各種の
試験を行い、1988年に優良品種となった。単交配の一代
雑種で両親の系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「P3732」よりやや早く、初期生育もやや優
り、稈長は高く、着雌穂高は「P3732」並である。

2. 晩生の中に属する。絹糸抽出期は「P3732」より3
日程度遅く、収穫時の熟度は「P3732」並かやや遅く、
総体の乾物率も同等かやや低い。
3. 耐倒伏性は「P3732」より弱く、すす紋病抵抗性も
弱く、こま葉枯病抵抗性は「P3732」より強い。
4. 乾物・TDN収量とも「P3732」よりやや高く、乾
物中TDNはやや低い。

栽培適地と奨励態度

道央(北部を除く)及び道南地域の気象条件の良い地帯に適する。栽培上の注意は、一般の栽培基準に準ずるが、
すす紋病の発生軽減のため適正な肥培管理を行う。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	ロイヤルデント105T	1.8	8.15	20.3	黄中	1,986	1,375	118	27.2	69.2	1985~1987
	P 3 7 3 2	2.1	8.12	4.0	黄後	1,615	1,164	100	27.5	72.0	
	P 3 7 1 5	2.1	8.14	11.4	黄後	1,655	1,191	102	26.6	72.0	
中央農試	ロイヤルデント105T	2.7	8.14	36.0	黄後	2,028	1,425	115	26.8	70.2	1985~1987
	P 3 7 3 2	2.7	8.11	34.9	黄中	1,729	1,240	100	26.1	71.7	
	P 3 7 1 5	3.0	8.12	34.8	黄中~後	1,691	1,208	97	26.4	71.4	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 63-64(1988)。

(8) **ロイヤルデントリンダ** (系統名 TH82082) 1988年
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸第
32号

来歴 本品種は、アメリカのトップファーム社が育成したもので、タキイ種苗(株)が導入し1983年から各種の試験を行い、1988年に優良品種となった。単交配の一代雑種で両親の系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「C535」より早い、初期生育は「C535」並かやや劣り、稈長・着雌穂高とも「C535」より高い。
2. 中生の早に属する。絹糸抽出期は「C535」より3日

程度遅く、収穫時の熟度は「C535」より遅く、総体の乾物率も「C535」より低い。

3. 耐倒伏性は強く、すす紋病抵抗性は「C535」よりやや弱く、こま葉枯病抵抗性はやや強い。
4. 乾物・TDN収量とも「C535」より高いが、莖葉が比較的多いので、乾物中のTDNは「C535」より低い。

栽培適地と奨励態度

十勝中部及び道央北部地域に適する。栽培上の注意は、低温時には初期生育が劣るので、肥料やけや初期雑草の対策に留意し生育の促進を図り、すす紋病の発生軽減のため適正な肥培管理を行う。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (%)	同左比 (%)			
十勝農試	ロイヤルデントリンダ	2.5	8.12	23.0	樹後~黄初	1,119	789	107	23.0	70.3	1983 1985~1987
	C 5 3 5	2.3	8. 8	34.0	黄 初	1,023	736	100	24.0	71.9	
	ワセホマレ	1.2	8. 6	44.1	黄 中	966	698	95	27.8	72.3	
上川農試	ロイヤルデントリンダ	2.3	8. 1	0	黄 後	1,475	1,065	120	30.8	72.2	1985~1987
	C 5 3 5	2.7	7.30	9.5	黄 後	1,234	890	100	28.7	72.1	
	ワセホマレ	2.9	7.29	2.1	黄後~完	1,068	769	86	29.3	72.0	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 57-59(1988)。

(9) **バリエント** (原名 OS104) 1988年
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸交
第33号

来歴 本品種はカナダのオセコ社が育成し、三井東圧肥料株式会社が導入し1984年から各種の試験を行い、1988年に優良品種となったものである。変形単交配一代雑種で、その構成系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽・初期生育は「バッファロー」並で、「ホクユウ」よりやや劣り、稈長は「バッファロー」に比べ高く、着雌穂高は同程度である。
2. 中生の中に属する。絹糸抽出期は「バッファロー」

より1~2日早く、収穫時の熟度は「バッファロー」より進が、総体の乾物率同程度である。

3. 耐倒伏性は「バッファロー」と同程度で、すす紋病抵抗性とこま葉枯病抵抗性は「バッファロー」よりやや強い。
4. 乾物・TDN収量とも「バッファロー」よりやや高く、乾物中TDNは同程度である。

栽培適地と奨励態度

十勝中部・網走内陸部及び道央北部地域に適する。栽培上の注意は、一般の栽培基準に準ずるが、初期生育がやや劣るので、肥料やけや初期雑草の対策に留意する。また、すす紋病の発生軽減のため適正な肥培管理を行う。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (%)	同左比 (%)			
十勝農試	OS104	2.0	8. 9	38.4	黄初~中	1,326	937	101	25.3	46.6	1984~1987
	バッファロー	2.0	8.10	47.2	樹後~黄初	1,307	926	100	25.2	47.5	
	ホクユウ	1.9	8.11	87.2	黄初~中	1,179	815	88	25.1	41.0	
北見農試	OS104	3.2	8.16	2.0	黄初~後	1,609	1,124	110	26.3	43.5	1985~1987
	バッファロー	3.4	8.18	1.7	黄 初	1,453	1,022	100	25.9	45.3	
	ホクユウ	2.9	8.18	24.3	黄 中	1,550	1,053	103	25.8	36.5	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 61-62(1988)。

(10) **ハイゲンミノリ** (系統名 道交S10号) 1989年
 登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)北海道
 交第20号(農水省)とうもろこし農林
 交30号(種苗法)第2338号

来歴 本品種は、1979年に北海道立十勝農業試験場において、「66C5-4×To15」を母とし、「CM91×CM174」を父として育成したフロント種×デント種の複交配一代雑種である。1985年より「十交S36」、1986年から「道交S10号」の系統名で各種の試験を行い、1989年に優良品種となった。

特性概要

1. 発芽は「ダイヘイゲン」並かやや早く、低温発芽性も「ダイヘイゲン」並に優れ、初期生育は「ダイヘイゲン」よりやや劣る。
2. 稈長は「C535」及び「ダイヘイゲン」よりやや高く、着雌穂高は「ダイヘイゲン」並で、耐倒伏性は「C535」より明らかに優り、「ダイヘイゲン」に比べても優る。
3. 早生の晩に属する。絹糸抽出期は「C535」より2日

程度遅く、「ダイヘイゲン」より2～3日遅い。収穫時の熟度は「C535」並かやや遅く、総体の乾物率は「C535」と同程度かやや高い。

4. 乾物・TDN収量は「C535」、「ダイヘイゲン」を上回る。
5. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く「C535」並、ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く「C535」並かやや弱い。
6. 飼料成分は「C535」や「ダイヘイゲン」並、乾物中TDNは「ダイヘイゲン」よりやや低くて「C535」並である。

栽培適地と奨励態度

十勝中部、網走内陸部及び道央北部に適する。栽培上の注意は、耐倒伏性に優れ、密植による増収効果も見られるが、過度の密植はサイレージ用原料としての品質低下を招き必ずしも栄容収量の増加につながらないので、栽植本数は6,500本/10a程度とし、また、すず紋病抵抗性は比較的弱いので、適期播種と適正な肥培管理を行い健全な生育を図る。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	ハイゲンミノリ	1.5	8.9	13.1	黄初~中	1,066	757	108	25.7	71.0	1981~1988
	C 5 3 5	2.5	8.7	32.7	黄初~中	995	702	100	24.9	70.2	
	ダイヘイゲン	1.2	8.6	22.9	黄中	963	694	99	26.4	71.9	
北見農試	ハイゲンミノリ	2.7	8.13	0.8	黄中	1,288	896	98	24.7	69.5	1985~1988
	C 5 3 5	3.6	8.12	4.9	黄初~中	1,319	911	100	24.0	68.9	
	ダイヘイゲン	1.8	8.11	4.6	黄中~後	1,328	942	103	25.9	70.8	

参照 1) 北海道農政部編, 平成元年普及奨励ならびに指導参考事項, 29-31(1989)。

(11) **キタアサヒ** (系統名 北交43号) 1989年
 登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)北海道
 交第20号(農水省)とうもろこし農林
 交31号(種苗法)第2875号

来歴 本品種は、農林水産省北海道農業試験場において育成したデント種×フロント種の複交配一代雑種で、1982年より「月交537」、1987年から「北交43号」の系統名で各種の試験を実施し、1990年に優良品種となった。なお、組合せは(914-2×CM174)×(Ho3×Ho4)である。

特性概要

1. 発芽は良好で、初期生育は「C535」並かやや優り、稈長と着雌穂高は「C535」より高く、「バッファロー」

より低い。

2. 中生の早に属する。絹糸抽出期は「C535」より3日程度遅く、「バッファロー」より2日程度早い。収穫時の熟度は「C535」より遅く、「バッファロー」より早い。総体の乾物率は「C535」並かやや低い。
3. 耐倒伏性は「C535」より明らかに優り、「バッファロー」と同程度である。すず紋病抵抗性とごま葉枯病抵抗性は「C535」と同程度である。
4. 乾総重及びTDN収量は「C535」より多く、乾物中TDNは「C535」よりやや低く、「バッファロー」よりやや高い。

栽培適地と奨励態度

十勝中部、網走内陸部の気象条件の良好な地帯及び道央北部に適する。栽培上の注意は、耐倒伏性が強く、密

植効果も認められるが、過度の密植はサイレーシ原料品質の低下を招くので避け、また、すす紋病抵抗性は比較

的弱いので、適正な肥培管理を行って健全な生育をはかる。

試験場名	品種名	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	稈長 (cm)	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	キタアサヒ	8.5	5.8	黄後	205	1,460	1,061	99	32.9	72.7	1982~1989
	C 5 3 5	8.3	11.0	黄後	185	1,314	959	96	30.6	73.0	
	バッファロー	8.8	6.3	黄中後	207	1,481	1,070	100	31.9	72.3	
十勝農試	キタアサヒ	8.9	12.9	黄初中	246	1,196	857	100	27.8	71.3	1982~1989
	C 5 3 5	8.6	22.7	黄中	223	1,081	778	91	28.4	71.9	
	バッファロー	8.12	13.4	黄初	255	1,218	856	100	26.7	70.2	
北見農試	キタアサヒ	8.16	0.8	黄中	216	1,289	906	99	26.8	70.0	1982~1989
	C 5 3 5	8.12	4.0	黄中	207	1,285	902	98	25.6	69.9	
	バッファロー	8.18	1.6	糊後	226	1,336	916	100	26.0	68.0	

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 42-45(1990).
2) 三浦康男, 農業技術, 46, 90(1991).

(1) ANJOU 09 (原名 ANJOU 09) 1989年
登録番号: (北海道)とうもろこし(飼)準輪第
34号

来歴 本品種は、フランスのリマグラン社が育成し、
タキイ種苗(株)が導入し1986年から各種の試験を行い、
1989年に優良品種となった。三系交配一代雑種で構成系
統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「ヒノデワセ」並かやや遅く「ワセミノリ」
並で、初期生育は「ヒノデワセ」より劣る。
2. 稈長はほぼ「ヒノデワセ」並、着穂高はやや低い。
3. 早生の中に属する。絹糸抽出期は「ヒノデワセ」に

比べ1~2日遅い、収穫時の熟度は「ワセミノリ」並
で「ヒノデワセ」よりやや遅れ、総体の乾物率は「ヒ
ノデワセ」並かやや高い。

4. 耐倒伏性は「ヒノデワセ」並かやや弱く、すす紋病
抵抗性は「ヒノデワセ」よりやや弱く、こま葉枯病抵
抗性は「ヒノデワセ」並かやや弱い。

5. TDN収量は「ヒノデワセ」よりやや高く「ワセミ
ノリ」並、乾物中のTDNは両品種と同程度である。

栽培適地と奨励態度

根釧内陸、道北及び十勝山麓・沿海地帯に適する。栽
培上の注意は、発芽がやや遅く、初期生育が劣るので初
期雑草の対策に留意し、また、すす紋病発生軽減のため
適正な肥培管理を行い、健全な生育を図る。

試験場名	品種名	初期 生育 (1-5)	絹糸 抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
根釧農試	ANJOU 09	3.5	8.25	29.3	糊中~後	871	608	97	22.4	69.8	1986~1988
	ヒノデワセ	2.5	8.23	7.7	糊後	889	626	100	21.8	69.7	
	ワセミノリ	3.6	8.24	55.3	糊後	881	618	99	22.4	70.2	
天北農試	ANJOU 09	3.0	8.22	4.9	糊中~後	934	658	104	23.1	70.3	1986~1988
	ヒノデワセ	2.2	8.20	7.0	糊後	882	630	100	22.3	71.4	
	ワセミノリ	2.9	8.21	5.2	糊中	900	641	102	22.1	71.1	
十勝農試	ANJOU 09	2.2	8.3	24.3	黄初~中	1,078	775	111	26.8	71.8	1986~1988
	ヒノデワセ	1.1	8.2	28.0	黄中	969	696	100	27.0	71.8	
	ワセミノリ	2.2	8.3	32.8	黄初~中	1,040	744	107	25.7	71.4	

参照 1) 北海道農政部編, 平成元年普及奨励ならびに指導参考事項, 34-35(1989).

(13) **ロイヤルデントコメット80** (系統名 LG2080) 1989年
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸第
35号

来歴 本品種は、フランスのリマグラン社が育成し、タキイ種苗(株)が導入し1986年から道内各地で各種の試験を行い、1989年に優良品種となったものである。三系交配で構成系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽はほぼ「ヒノデワセ」並、初期生育は「ワセミノリ」よりやや優り、「ヒノデワセ」に比べるとやや劣る。
2. 絹糸抽出期は「ワセミノリ」と同程度の早生の早、収穫時熟度は「ヒノデワセ」並かやや進み、「ワセミノリ」よりやや進む。総体の乾物率は両品種より高い。

3. 稈長は「ヒノデワセ」や「ワセミノリ」よりやや長く、着雌穂高は両品種とほぼ同程度である。
4. すず紋病抵抗性は「ヒノデワセ」並、ごま葉枯病抵抗性は両品種より強い。
5. TDN収量は「ヒノデワセ」より多く、「ワセミノリ」に比べると同程度かやや多い。乾物中TDNは両品種とほぼ同程度である。

栽培適地と奨励態度

根釧、道北及び十勝・沿海地帯に適する。栽培上の注意は、初期生育がやや劣るので、初期雑草の対策に留意し、また、すず紋病発生軽減のため適正な肥培管理を行い、健全な生育を図る。

試験場名	系統名 および 品種名	初期 生育 (1-5)	絹糸 抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
根釧農試	ロイヤルデントコメット80	2.8	8.24	12.3	糊後~黄初	944	657	105	24.2	69.5	1986~1988
	ヒノデワセ	2.5	8.23	7.7	糊後	899	626	100	21.8	69.7	
	ワセミノリ	3.6	8.24	55.3	糊後	881	618	99	22.4	70.2	
天北農試	ロイヤルデントコメット80	2.4	8.21	4.2	糊後~黄初	928	660	105	25.0	70.9	1986~1988
	ヒノデワセ	2.2	8.20	7.0	糊後	882	630	100	22.3	71.4	
	ワセミノリ	2.9	8.21	5.2	糊中	900	641	102	22.1	71.1	
十勝農試	ロイヤルデントコメット80	2.2	8.3	31.2	黄中	1,102	790	114	29.2	71.4	1986~1988
	ヒノデワセ	1.1	8.2	28.0	黄中	969	696	100	27.0	71.8	
	ワセミノリ	2.2	8.3	32.8	黄初~中	1,040	744	107	25.7	71.4	

参照 1) 北海道農政部編、平成元年普及奨励ならびに指導参考事項、32-33(1989)。

(14) **R X 420** (系統名 H402238) 1989年
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸第
36号

来歴 本品種は、アメリカのアスグロシード社が育成し、北海製缶(株)が導入したもので、1987年から各種の試験を行い、1989年に優良品種となった。デント種×デント種の複交配一代雑種で構成系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽及び初期生育は「バッファロー」よりやや劣り、稈長は「バッファロー」より高く、「P3732」より低く、着雌穂高は両品種より高い。

2. 中生の晩に属する。絹糸抽出期は「バッファロー」より2~3日遅く、「P3732」より1~2日早く、総体の乾物率は「バッファロー」よりやや低い。
3. 耐倒伏性は「バッファロー」より明らかに強く、「P3732」並である。すず紋病抵抗性は「バッファロー」並かやや強く、ごま葉枯病抵抗性は「バッファロー」より弱い。
4. 乾物・TDN収量とも「バッファロー」より優り、乾物中のTDNはやや低い。

栽培適地と奨励態度

道央地域に適する。栽培上の注意は、一般の栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1-5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	R X 4 2 0	1.9	8.11	4.0	黄後	1,565	1,124	107	28.2	71.8	1986~1988
	バッファロー	1.6	8.8	6.3	黄後	1,466	1,054	100	29.2	71.9	
	P 3 7 3 2	1.7	8.13	4.2	黄後	1,514	1,090	103	27.2	72.0	
中央農試	R X 4 2 0	2.7	8.12	0.6	黄初~中	1,909	1,375	115	30.0	72.0	1987~1988
	バッファロー	2.2	8.8	3.8	黄初	1,659	1,193	100	30.4	71.9	
	P 3 7 3 2	2.6	8.12	2.7	黄中	1,841	1,321	111	29.1	71.8	

参照 1) 北海道農政部編, 平成元年普及奨励ならびに指導参考事項, 36-37(1989)。

(15) リビア (系統名 LIVIA) 1990年

登録番号: (北海道)とうもろこし(飼)準輪第37号

来歴 本品種はフランスのパイオニア社が育成し、ホクレン農業協同組合連合会が導入したもので、1987年から各種の試験を行い、1990年に優良品種となった。テント種×フリント種の三系交配一代雑種で、構成系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「C535」並で「ダイヘイゲン」よりやや遅く、初期生育は「C535」並である。
2. 絹糸抽出期は「C535」より1日程度早く、ほぼ「グ

- イヘイゲン」並、収穫時の熟度は「C535」よりやや進み、「ダイヘイゲン」と同程度である。総体の乾物率は「C535」並やや高く、「ダイヘイゲン」よりやや低い。
3. 稈長は「C535」と同程度であるが、着雌穂高は高い。
 4. 耐倒伏性は「C535」や「ダイヘイゲン」と同程度かやや強く、すす紋病抵抗性は「C535」並かやや弱く、こま葉枯病抵抗性は弱い。
 5. 乾物・TDN収量とも「C535」並かやや多く、乾物中のTDN割合は「C535」より低い。

栽培適地と奨励態度

道北の気象条件の良い所及び十勝中部、網走内陸部に適する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1-5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	リビア	2.5	8.3	21.5	黄初~中	1,215	851	113	25.5	69.9	1987~1989
	C 5 3 5	1.9	8.4	32.3	黄初	1,068	756	100	25.3	70.7	
	ダイヘイゲン	1.0	8.3	30.0	黄初~中	1,072	764	101	27.9	71.3	
北見農試	リビア	3.0	8.10	1.4	黄中	1,286	891	102	25.0	69.4	1987~1989
	C 5 3 5	2.9	8.12	3.6	黄初~中	1,270	876	100	23.9	68.9	
	ダイヘイゲン	1.3	8.10	5.1	黄中	1,151	807	92	24.9	69.7	

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 54-56(1990)。

(16) 3540 (系統名 VALERIA) 1990年

登録番号: (北海道)とうもろこし(飼)準輪第38号

来歴 本品種は、アメリカのパイオニア社が育成し、ホクレン農業協同組合連合会が導入し、1987年から各種の試験を行い、1990年に優良品種となった。テント種×テント種の単交配一代雑種で構成系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「P3732」よりやや早く、初期生育は優り、稈長や着雌穂高は「P3732」より高い。
2. 晩生の中に属する。絹糸抽出期は「P3732」より3~4日遅く、収穫時の熟度は「P3732」よりやや遅く、総体の乾物率は「P3732」より低い。
3. 耐倒伏性は「P3732」より強く、すす紋病抵抗性は「P3732」よりやや弱く、こま葉枯病抵抗性は「P3732」

並かやや強い。

栽培適地と奨励態度

4. 乾物・TDN収量とも「P3732」より優り、総体の乾物率・乾物中TDNとも「P3732」より低い。

道央(北部は除く)、道南地域に適する。栽培上の注意は、一般栽培に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
中央農試	3 5 4 0	1.9	8.13	0.9	黄中	2,089	1,478	113	29.2	70.8	1987~1989
	P 3 7 3 2	2.2	8.10	1.8	黄中	1,809	1,305	100	29.5	72.1	
道南農試	3 5 4 0	2.3	8.12	14.3	黄中	1,947	1,373	109	26.5	70.2	1987~1989
	P 3 7 3 2	3.1	8.8	13.4	黄中~後	1,743	1,255	100	29.3	72.1	

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考, 56-58(1990)。

(17) AW611 (原名 AW611) 1991年

登録番号: (北海道)とうもろこし(飼)準輸交第40号

来歴 本品種は、フランスのアズグロシード社が育成し、北海製缶(株)が導入し1988年より各種の試験を行い、1991年に優良品種となった。テント種×フリント種の単交配一代雑種で、構成系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「ダイヘイゲン」より遅く、初期生育は劣る。稈長は「ダイヘイゲン」並かやや低く、着雌穂高は「ダイヘイゲン」よりやや低い。
2. 早生の晩に属する。絹糸抽出期は「ダイヘイゲン」

並で、収穫時の熟度は「ダイヘイゲン」並かやや進み、総体の乾物率は「ダイヘイゲン」並かやや低い。

3. 耐倒伏性は「ダイヘイゲン」並かやや強く、すす紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」並かやや強く、ごま葉枯病抵抗性もやや強い。

4. 乾物・TDN収量は「ダイヘイゲン」に比べて多く、乾物中のTDNはほぼ「ダイヘイゲン」並である。

栽培適地と奨励態度

十勝中部、網走内陸及び道北、根釧の気候条件の良い地帯に適する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずるが、「ダイヘイゲン」に比べて発芽が遅く、初期生育が劣るので肥料やけに留意し、初期雑草対策を十分に行う。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	AW611	1.4	8.1	0.2	黄初~中	1,286	925	114	27.6	71.8	1988~1990
	ダイヘイゲン	1.0	8.1	1.2	黄初~中	1,125	809	100	29.2	71.8	
	ワセホマレ	1.0	8.1	6.0	黄初~後	1,059	762	94	30.5	71.8	
北見農試	AW611	1.8	8.6	1.2	黄中~後	1,257	905	111	26.6	72.0	1988~1990
	ダイヘイゲン	1.3	8.7	2.2	黄中~後	1,146	815	100	25.6	70.6	
	ワセホマレ	1.2	8.6	6.1	黄中~後	1,023	732	90	26.9	70.9	
天北農試	AW611	1.6	8.13	9.2	黄初	1,155	833	116	26.3	72.1	1988~1990
	ダイヘイゲン	1.2	8.15	26.0	黄初~後	993	718	100	25.7	72.3	
	ワセホマレ	1.1	8.14	29.3	黄初	937	680	95	27.2	72.7	
根釧農試	AW611	3.0	8.19	21.3	黄初	1,068	744	105	23.3	69.5	1988~1990
	ダイヘイゲン	2.1	8.19	25.7	黄初~後	1,007	706	100	22.9	69.8	
	ワセホマレ	2.3	8.17	44.3	黄初~後	948	654	93	23.8	68.6	

参照 1) 北海道農政部編, 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 42-44(1991)。

(18) DK464 (系統名 EXP-646) 1991年
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸第
41号

来歴 本品種はアメリカのデカルブプラントジェネテックス社が育成し、カネコ種苗(株)が導入し、1988年より各種の試験を行い、1991年に優良品種となった。デント種×デント種の単交配一代雑種で、両親の系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「P3732」よりやや早く「キタユタカ」並、初期生育は「P3732」並で「キタユタカ」よりやや劣る。
2. 中生の晩に属する。絹糸抽出期は「キタユタカ」よ

り3日程遅く、「P3732」より2日程早い。収穫時の熟度は「キタユタカ」よりやや遅く、「P3732」よりやや早い。

3. 稈長と着雌穂高は「P3732」より低い。
4. 耐倒伏性は「P3732」よりやや弱く、すす紋病抵抗性は「P3732」よりやや弱く、ごま葉枯病抵抗性は「P3732」より強い。
5. TDN収量は「P3732」並で「キタユタカ」より高い。総体の乾物率、乾物中のTDNは「P3732」並で「キタユタカ」よりやや高い。

栽培適地と奨励態度

道央(北部は除く)、道南地域に適する。栽培上の注意は、耐倒伏性が強いとはいえないので適正な栽培密度と施肥量を守る。

試験場名	品種名	初期生育(1~5)	絹糸抽出期(月日)	倒伏(%)	収穫時熟度	10a 当り			総体乾物率(%)	乾物中TDN(%)	試験年次
						乾総重(kg)	TDN(kg)	同左比(%)			
中央農試	DK464	1.7	8.4	0.0	黄中	1,858	1,352	101	31.1	72.8	1988~1990
	P3732	1.8	8.6	0.0	黄中	1,852	1,341	100	30.1	72.4	
	キタユタカ	1.7	8.1	0.0	黄中	1,676	1,210	90	30.2	71.9	
道南農試	DK464	2.3	8.5	4.4	黄中後	1,876	1,353	99	28.4	72.1	1988~1990
	P3732	2.4	8.7	2.8	黄中	1,913	1,371	100	28.4	71.6	
	キタユタカ	2.1	8.2	4.4	黄中	1,638	1,174	86	26.9	71.6	

参照 1) 北海道農政部編, 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 45-46(1991)。

(19) DK535 (系統名 EXP-654) 1991年
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸第
42号

来歴 本品種はアメリカのデカルブプラントジェネテックス社が育成し、カネコ種苗(株)が導入し、1988年より各種の試験を行い、1991年に優良品種となった。デント種×デント種の単交配一代雑種で、両親の系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「P3732」並で、初期生育は「P3732」並かやや劣り、「3540」より劣る。
2. 晩生の中に属する。絹糸抽出期は「P3732」よりや

や遅く、「3540」よりやや早く、収穫時の熟度は「P3732」や「3540」並かやや遅い。

3. 稈長、着雌穂高は「P3732」や「3540」より低く、耐倒伏性は両品種並である。
4. すず紋病抵抗性は「P3732」よりやや強く、ごま葉枯病抵抗性は「P3732」より強い。
5. 乾物・TDN収量は「P3732」よりやや高く、「3540」より低い。総体の乾物率は「P3732」より低く、「3540」より高い。

栽培適地と奨励態度

道央(北部は除く)、道南(八雲を除く)の気象条件の良好な地帯に適する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育(1~5)	絹糸抽出期(月日)	倒伏(%)	収穫時熟度	10a 当り			総体乾物率(%)	乾物中TDN(%)	試験年次
						乾総重(kg)	TDN(kg)	同左比(%)			
北海道農試	DK535	2.2	8.12	1.6	黄中後	1,610	1,165	101	28.6	72.4	1988~1990
	P3732	1.8	8.9	0.2	黄中後	1,578	1,153	100	29.4	73.1	
	3540	1.6	8.13	0.0	黄後	1,734	1,243	108	27.8	71.2	

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
中央農試	D K 5 3 5	1.7	8.7	0.0	黄初	2,024	1,468	109	28.9	72.6	1988~1990
	P 3 7 3 2	1.8	8.6	0.0	黄中	1,852	1,341	100	30.1	72.4	
	3 5 4 0	1.0	8.7	0.0	黄中	2,072	1,482	111	28.5	71.5	
道南農試	D K 5 3 5	2.3	8.8	0.0	黄中	1,881	1,353	99	26.4	71.9	1988~1990
	P 3 7 3 2	2.4	8.7	2.8	黄中	1,913	1,371	100	28.4	71.6	
	3 5 4 0	2.0	8.10	0.0	黄中後	2,111	1,484	108	25.7	70.0	

参照 1) 北海道農政部編, 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 48-50(1991)。

(20) カーギル123 (系統名 SX123) 1992年

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸第43号

来歴 本品種は、アメリカのカーギル・インコーポレテッド社が育成し、カーギルジャパンリミテッドが導入し、1989年から各種の試験を行い、1992年に優良品種となった。テント種×テント種の単交配一代雑種で、構成系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「キタユタカ」より早く、初期生育は「キタユタカ」や「キタアサヒ」並である。
2. 稈長は「キタユタカ」より高く、着雌穂高は「キタユタカ」よりもやや高い。

3. 中生の早に属する。絹糸抽出期は「キタユタカ」並か1日遅く、「キタアサヒ」に比べると2~3日遅い。収穫時の熟度はほぼ「キタユタカ」並で、「キタアサヒ」に比べるとやや遅く、総体の乾物率は「キタアサヒ」に比べるとやや低い。

4. 耐倒伏性は「キタユタカ」並である。すす紋病抵抗性は「キタユタカ」に比べやや強く、こま葉枯病抵抗性はやや弱い。

5. 乾物・TDN収量は「キタユタカ」より多く、乾物中のTDNは「キタユタカ」より高く、ほぼ「キタアサヒ」並である。

栽培適地と奨励態度

十勝中部の気象条件の良好な地帯に適する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	カーギル123	1.7	8.5	0.6	黄初~中	1,464	1,068	110	29.9	73.0	1989~1991
	キタユタカ	1.6	8.5	3.6	黄初~中	1,358	968	100	26.1	71.2	
	カーギル123	1.6	8.3	0.4	黄初~中	1,511	1,106	115	30.6	73.2	1990~1991
	キタユタカ	1.5	8.3	2.2	黄初~中	1,353	963	100	25.8	71.1	
	キタアサヒ	1.4	8.2	0.2	黄中	1,366	977	101	30.2	71.5	

参照 1) 北海道農政部編, 平成4年普及奨励ならびに指導参考事項, 49-51(1992)。

(21) 3897 (系統名 XCD73) 1992年

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸第44号

来歴 本品種は、アメリカのバイオニア社が育成し、ホクレン農業協同組合連合会が導入し、1989年から各種の試験を行い、1993年に優良品種となった。テント種×テント種の単交配の一代雑種で、両親の系統名は不明で

ある。

特性概要

1. 発芽と初期生育は「キタユタカ」並、稈長と着雌穂高はともに「キタユタカ」よりやや高い。
2. 中生の早に属する。絹糸抽出期は「キタユタカ」より1日程度早く、収穫時の熟度は「キタユタカ」並かやや進み、総体の乾物率は「キタユタカ」より高い。
3. 耐倒伏性は「キタユタカ」並である。すす紋病抵抗

性とごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」より強い。

栽培適地と奨励態度

4. 乾物・TDN収量は「キタユタカ」より高く、乾物中TDNも「キタユタカ」より高い。

道央地帯に適する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1-5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
中央農試	3 8 9 7 キタユタカ	1.2	7.28	0.1	黄中	1,758	1,291	108	31.6	73.5	1989~1991
		1.2	7.29	0.0	黄中	1,645	1,196	100	31.0	72.7	
滝川畜試	3 8 9 7 キタユタカ	2.1	7.29	0.0	黄中後	1,731	1,260	116	28.5	72.8	1989~1991
		2.0	7.31	0.0	黄中後	1,510	1,086	100	26.1	71.0	

参照 1) 北海道農政部編, 平成4年普及奨励ならびに指導参考事項, 51-54(1992)。

(2) セリア (系統名 XCPD76) 1993年

登録番号: (北海道)とうもろこし(飼)準輸第45号

来歴 本品種はフランスのパイオニア社が育成し、ホクレン農業協同組合連合会が導入し、1990年から各種の試験を行い、1993年に優良品種となった。テント種×テント種の単交配一代雑種で、構成系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「ヘイゲンミノリ」よりやや遅く、初期生育は「ヘイゲンミノリ」に比べやや劣る。

2. 稈長や着雌穂高は「ヘイゲンミノリ」や「ディア」より高く、耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」や「ディア」並である。

3. 早生の晩に属する。絹糸抽出期は「ヘイゲンミノリ」並で、収穫時の熟度及び総体の乾物率は「ヘイゲンミノリ」や「ディア」並である。

4. すず紋病抵抗性は「ヘイゲンミノリ」並、ごま葉枯病抵抗性は「ヘイゲンミノリ」より強い。

栽培適地と奨励態度

十勝中部、道央北部及び網走内陸の気候条件の良好な地帯に適する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1-5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	セリア	1.8	8.3	0.3	黄初	1,348	970	111	26.3	71.8	1990~1992
	ヘイゲンミノリ	1.4	8.3	0.5	黄初	1,215	873	100	27.3	71.8	
	ディア	1.9	8.3	0.5	黄初	1,264	910	104	26.8	71.9	
北見農試	セリア	2.2	8.9	0.7	黄初~中	1,507	1,072	108	25.9	71.1	1990~1992
	ヘイゲンミノリ	1.1	8.9	1.0	黄中	1,380	991	100	26.2	71.8	
	ディア	2.2	8.7	0.1	黄中	1,460	1,053	106	26.0	72.1	
上川農試	セリア	2.3	7.27	0.3	黄中~後	1,349	980	116	32.2	72.7	1990~1992
	ヘイゲンミノリ	1.5	7.28	0.1	黄中	1,178	846	100	30.2	71.8	
	ディア	2.6	7.26	0	黄中	1,343	977	115	32.2	72.8	

参照 1) 北海道農政部編, 平成5年普及奨励ならびに指導参考事項, 40-42(1993)。

(3) コラリス (原名 コラリス) 1993年

登録番号: (北海道)とうもろこし(飼)準輸第46号

来歴 本品種はフランスのコーポ・ド・ポーが育成し、ゲン・コーポレーションが導入して1990年から各種の試

験を行い、1993年に優良品種となった。(フロント種×テント種)×テント種の三系交配一代雑種で、構成系統名は不明である。

特性の概要

1. 発芽は「ダイヘイゲン」よりやや遅く、「ヘイゲンミノリ」より遅い。初期生育は「ダイヘイゲン」より劣

- り、「ディア」並である。
- 2. 稈長や着雌穂高は「ディア」並で、「ダイヘイゲン」や「ヘイゲンミノリ」より高く、耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」や「ディア」よりやや弱く、「ダイヘイゲン」並である。
- 3. 早生の中に属する。絹糸抽出期は「ダイヘイゲン」並で、「ヘイゲンミノリ」に比べると4日程度早い。収穫時の熟度は「ダイヘイゲン」に比べてやや進み、総体の乾物率は「ヘイゲンミノリ」や「ディア」と同程度である。

- 4. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや強く、ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強い。
- 5. 乾物・TDN収量は「ダイヘイゲン」より多く、「ヘイゲンミノリ」に比べると同程度かやや多く、ほぼ「ディア」並である。乾物中TDNは「ダイヘイゲン」より低く、「ヘイゲンミノリ」や「ディア」並である。

栽培適地と奨励態度

十勝中部、網走内陸部及び根釧の気候条件の良好な地帯に適する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	コラリス	1.8	7.30	1.6	黄中	1,239	883	111	26.9	71.1	1990~1992
	ダイヘイゲン	1.0	7.31	2.2	黄初~中	1,099	793	100	28.1	72.0	
	ヘイゲンミノリ	1.4	8.3	0.5	黄初	1,215	873	110	27.3	71.8	
	ディア	1.9	8.2	0.5	黄初	1,264	910	115	26.8	71.9	
北見農試	コラリス	2.6	8.8	3.7	黄中	1,399	994	108	25.4	71.0	1990~1992
	ダイヘイゲン	1.7	8.8	2.5	黄初~中	1,266	922	100	25.2	72.8	
	ヘイゲンミノリ	1.9	8.13	1.1	黄初~中	1,287	916	99	24.9	71.0	
	ディア	2.8	8.11	0.1	黄初~中	1,345	955	104	24.5	70.9	
根釧農試	コラリス	2.0	8.17	31	黄初	1,195	829	101	24.2	69.8	1990~1992
	ダイヘイゲン	1.0	8.17	29	糊後~黄初	1,150	817	100	24.9	71.2	
	ヘイゲンミノリ	1.6	8.20	15	糊後	1,158	800	98	23.2	68.9	
	ディア	2.3	8.20	14	糊後	1,213	842	103	24.3	69.3	

参照 1) 北海道農政部編, 平成5年普及奨励ならびに指導参考事項, 43-44(1993)。

(24) 3477 (原名 3477) 1993年

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輪第
47号

来歴 本品種はアメリカのカーギル・インコーポレツド社が育成し、カーギル・ジャパン・リミテツド社が導入し、1990年から各種の試験を行い、1993年に優良品種となったもので、デント種×デント種の単交配一代雑種で、両親の系統名は不明である。

特性概要

- 1. 発芽は「キタユタカ」並、初期生育は「キタユタカ」並かやや劣る。
- 2. 稈長は「キタユタカ」より高く、着雌穂高は「キタ

ユタカ」並かやや高い。耐倒伏性は「キタユタカ」並である。

- 3. 中生の中に属する。絹糸抽出期は「キタユタカ」と同程度で、収穫時の熟度は「キタユタカ」並である。総体の乾物率は「キタユタカ」より高い。

- 4. すず紋病抵抗性は「キタユタカ」より強く、ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」より弱い。

- 5. 乾物・TDN収量は「キタユタカ」より多く、乾物中TDNは「キタユタカ」より高い。

栽培適地と奨励態度

道央(北部を除く)、道南に適する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
中央農試	3 4 7 7	1.3	7.29	6.1	黄中	1,934	1,414	122	30.8	73.1	1990~1992
	キタユタカ	1.4	7.29	2.7	黄中	1,610	1,161	100	30.2	72.2	
	P 3 7 3 2	1.3	8.2	1.2	黄中	1,919	1,401	121	29.6	73.1	
道南農試	3 4 7 7	2.4	7.29	8.3	黄中	1,774	1,290	119	33.1	72.3	1990~1992
	キタユタカ	1.5	7.29	36.6	黄後	1,517	1,082	100	28.9	71.3	
	P 3 7 3 2	2.2	8.2	3.2	黄中	1,959	1,409	130	32.2	72.0	

参照 1) 北海道農政部編, 平成5年普及奨励ならびに指導参考事項, 45-46(1993)。

(25) ライサ (系統名 X9033) 1994年

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸第 49号

来歴 本品種は、フランスのバイオニア社が育成し、ホクレン農業協同組合連合会が導入し1991年から各種の試験を行い、1994年に優良品種となった。デント種×デント種の単交配一代雑種で、両親の系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「キタユタカ」並かやや早く、初期生育は「キタユタカ」よりやや劣る。
2. 稈長と着雌穂高は「キタユタカ」より高いが、耐倒

伏性は「キタユタカ」より強い。

3. 中生の中に属する。絹糸抽出期は「キタユタカ」と同程度で、収穫時の熟度は「キタユタカ」と同程度かやや遅れ、総体の乾物率は「キタユタカ」より高い。
4. すず紋病抵抗性、ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」より強い。
5. 乾物・TDN収量は「キタユタカ」より多く、乾物中TDNも「キタユタカ」より高い。

栽培適地と奨励態度

道央地帯に適する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	ラ イ サ	2.7	8.5	0.0	黄中後	1,519	1,118	104	28.5	73.6	1991~1993
	キタアサヒ	2.5	8.3	0.0	黄中後	1,292	938	88	28.2	72.6	
	キタユタカ	2.4	8.4	3.7	黄中	1,480	1,072	100	27.4	72.5	
中央農試	ラ イ サ	1.7	8.4	1.3	黄初中	1,615	1,186	108	28.8	73.4	1991~1993
	キタアサヒ	1.5	7.30	4.3	黄中	1,584	1,151	104	30.5	72.6	
	キタユタカ	1.7	8.3	3.2	黄中	1,520	1,102	100	29.6	72.5	

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 46-67(1994)。

(26) 3845 (原名 3845) 1994年

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸第 50号

来歴 本品種は、アメリカのバイオニア社が育成し、ホクレン農業協同組合連合会が導入したもので、1991年から各種の試験を行い、1994年に優良品種となった。デント種×デント種の単交配一代雑種で構成系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「キタユタカ」や「P3732」より早く、初期生育は「キタユタカ」並で、「P3732」より優れる。
2. 稈長は「キタユタカ」並かやや高く、着雌穂高は「P3732」よりやや低く、「キタユタカ」より高い。耐倒伏性は「キタユタカ」より強く、「P3732」に比べるとやや弱い。
3. 中生の晩に属する。絹糸抽出期は「キタユタカ」より2~4日程度遅く、「P3732」より1~3日早い。収

穫時の熟度は「キタユタカ」よりやや遅れ、「P3732」並かやや進み、総体の乾物率は両品種より多い。

- すず紋病抵抗性は「キタユタカ」より強く、「P3732」より弱い。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」より強く、「P3732」よりやや弱い。
- 乾物・TDN収量は「キタユタカ」より多く、「P3732」

並かやや少ない。乾物中TDNは「キタユタカ」より高く、「P3732」よりやや高い。

栽培適地と奨励態度

道央、道南地帯に適する。栽培上の注意は、耐倒伏性は必ずしも十分とは言えないので、密植を避け、施肥量に留意する。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	3 8 4 5	1.9	8.7	1.2	黄中	1,618	1,188	111	29.0	73.3	1991~1993
	キタユタカ	2.4	8.6	3.7	黄中	1,480	1,078	100	27.4	72.5	
	P 3 7 3 2	3.4	8.11	0.0	黄中	1,608	1,178	110	28.1	73.2	
中央農試	3 8 4 5	1.6	8.7	3.0	黄初	1,696	1,241	113	30.2	73.2	1991~1993
	キタユタカ	1.7	8.3	3.2	黄中	1,520	1,102	100	29.6	72.5	
	P 3 7 3 2	1.7	8.8	1.2	黄中	1,802	1,316	119	29.4	72.9	
道南農試	3 8 4 5	1.3	8.5	4.7	黄中	1,808	1,310	121	33.6	72.4	1991~1993
	キタユタカ	1.3	8.3	47.5	黄中	1,520	1,083	100	28.8	71.2	
	P 3 7 3 2	1.8	8.7	35.6	黄中	1,890	1,351	125	31.5	71.5	

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 68-70(1994)。

(7) ゴールドデントDK300 (系統名 DK300) 1994年
登録番号: (北海道)とうもろこし(飼)準輸第
51号

来歴 本品種は、アメリカのデカルブ・プラント・ジェネテイクス社が育成し、カネコ種苗(株)が導入し1991年から各種の試験を行い、1994年優良品種となった。デント種×フリント種の単交配の一代雑種で、構成系統名は不明である。

特性概要

- 発芽は「キタアサヒ」並かやや遅く「キタユタカ」並で、初期生育は「キタアサヒ」や「キタユタカ」並である。
- 稈長は「キタアサヒ」や「キタユタカ」よりやや低く、着雌穂高「キタアサヒ」や「キタユタカ」並で、

耐倒伏性は「キタアサヒ」や「キタユタカ」より強い。

- 中生の早に属する。絹糸抽出期は「キタアサヒ」より2~3日遅く、「キタユタカ」とほぼ同じである。収穫時の熟度は「キタユタカ」並で、総体の乾物率は「キタユタカ」より高い。

- すず紋病抵抗性は「キタアサヒ」や「キタユタカ」よりやや強く、ごま葉枯病抵抗性は「キタアサヒ」より強く、「キタユタカ」よりやや強い。

- TDN収量は「キタアサヒ」や「キタユタカ」より多く、乾物中のTDNは「キタアサヒ」より高い。

栽培適地と奨励態度

道央北部、十勝中部および網走内陸部の気象条件の良好な地帯に適する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	ゴールドデントDK300	1.9	8.14	0.0	糊後	1,258	891	112	25.0	70.6	1991~1993
	キタアサヒ	1.7	8.12	2.9	糊後	1,161	798	100	24.6	68.7	
	キタユタカ	1.8	8.14	13.0	糊後	1,173	788	98	22.2	67.1	
北見農試	ゴールドデントDK300	1.9	8.18	0.0	糊初	1,376	954	106	23.3	69.2	1991~1993
	キタアサヒ	1.8	8.17	4.4	糊中	1,310	901	100	22.7	68.7	
	キタユタカ	2.0	8.19	3.1	糊初	1,358	918	102	20.6	67.5	

試験場名	品種名	初期生育 (1-5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
上川農試	ゴールドデントDK300	2.1	8.6	0.0	黄中	1,347	977	106	29.3	72.7	1991-1993
	キタアサヒ	1.9	8.3	0.1	黄中	1,300	920	100	29.2	70.6	
	キタユタカ	1.8	8.6	0.0	黄中	1,377	952	102	25.5	69.9	

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 71-73(1994)。

(28) ロイヤルデント90H (原名 TH8913) 1995年
登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸第
52号

来歴 本品種はアメリカのアグリセネティックス社が育成し、タキイ種苗(株)が導入し1992年から各種の試験を行い1995年に優良品種となった。フリント種×デント種の単交配一代雑種で、両親の系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「キタアサヒ」や「ヘイゲンミノリ」よりやや遅く、初期生育は「キタアサヒ」並、「ヘイゲンミノリ」と同程度かやや劣る。
2. 稈長は「キタアサヒ」より低く、「ヘイゲンミノリ」よりやや高い。着穂穂高は「キタアサヒ」より低く、

「ヘイゲンミノリ」並で、耐倒伏性は「キタアサヒ」や「ヘイゲンミノリ」より強い。

3. 中生の早に属する。絹糸抽出期は「キタアサヒ」より2-3日、「ヘイゲンミノリ」より1-2日早い。収穫時の熟度は「キタアサヒ」並かやや進み、「ヘイゲンミノリ」並かやや遅い。総体の乾物率は「キタアサヒ」よりやや低い。
4. すず紋病抵抗性は「キタアサヒ」並かやや強く、ごま葉枯病抵抗性は「キタアサヒ」並である。
5. 乾物・TDN収量は「キタアサヒ」並かやや多く、乾物中のTDNは「キタアサヒ」より高い。

栽培適地と奨励態度

道央北部、十勝中部及び網走内陸の気象条件の良好な地帯に適する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1-5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫時 熟度	10a 当り			総体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	ロイヤルデント90H	1.9	8.8	0.0	糊後	1,105	778	96	22.5	70.5	1992-1994
	キタアサヒ	1.6	8.10	2.5	糊後	1,169	811	100	24.4	69.1	
	ヘイゲンミノリ	1.7	8.9	0.5	糊後	1,091	782	96	24.5	71.5	
	デ イ ア	2.1	8.8	0.3	糊後~黄初	1,168	827	102	24.6	70.7	
	ロイヤルデントリング	2.2	8.10	2.7	糊後	1,157	814	100	23.4	70.2	
北見農試	ロイヤルデント90H	1.4	8.13	0.0	糊後	1,321	949	108	25.1	71.6	1992-1994
	キタアサヒ	1.9	8.16	4.4	糊後	1,250	880	100	25.8	70.1	
	ヘイゲンミノリ	1.4	8.15	4.4	糊後	1,174	846	96	27.6	71.9	
	デ イ ア	2.0	8.14	0.7	糊後	1,333	951	108	25.5	71.2	
上川農試 (土別)	ロイヤルデント90H	2.8	8.4	0.0	黄中~後	1,326	961	101	26.9	72.5	1992-1993
	キタアサヒ	2.3	8.6	0.2	黄中	1,366	954	100	26.8	69.8	
	ヘイゲンミノリ	2.4	8.5	0.0	黄後	1,307	940	99	27.7	71.9	

参照 1) 北海道農政部編, 平成7年普及奨励ならびに指導参考事項, 32-34(1995)。

<加工用>

(1) メロディスweet (系統名 十生13号) 1987年
 登録番号：(北海道)とうもろこし(普)北海道
 交第18号(農水省)とうもろこし農林
 交28号(種苗法)第2272号

来歴 本品種は、1978年に北海道立十勝農業試験場が、
 缶詰加工用sweetコーンの欠点である耐倒伏性並びに
 初期生育などの栽培特性や、加工適性の改良を目標に「G
 61D」を母とし、「Tos2」を父として育成したsweet
 種の単交配一代雑種で、1987年に優良品種となった。

特性の概要

1. 中生の早に属する。絹糸抽出期は「メローゴールド」
 より1~2日遅く、ほぼ「リライアンス」並である。
 収穫期は「メローゴールド」より2日遅く、「リライ
 アンス」に比べ1日早い。
2. 稈長は「メローゴールド」より高く、着雌穂高は低
 く、耐倒伏性は「メローゴールド」や「リライアンス」

より明らかに優る。

3. 雌穂長は「メローゴールド」や「リライアンス」に
 比べやや短く、穂芯は「メローゴールド」よりやや細
 く、穂先の不稔が少ないため歩留まりは良好である。
4. 収量性は「メローゴールド」より多収で、「リライ
 アンス」とほぼ同等の収量を示す。
5. すず紋病抵抗性、ごま葉枯病抵抗性は「メローゴ
 ルド」より弱い。
6. 粒色は濃黄で「メローゴールド」並、粒形は長方~
 さび型、ホールカーネル用としての加工適性は「メロ
 ゴールド」より高く、「リライアンス」に近い。

栽培適地と奨励態度

十勝中部、道央中部及び北部、網走内陸部の「メロ
 ゴールド」並の中生品種の栽培出来る地帯に栽培し、当
 該地域の加工用sweetコーンの安定生産に寄与する。
 栽培上の注意は、倒伏防止のための頂部切除の必要はな
 く、すず紋病抵抗性が弱いので連作をさけ、適期播種と
 適正な肥培管理を行い、熟期が比較的早いので適期収穫
 に努める。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1~5)	絹 糸 抽 出 期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 期 (月日)	10 a 当 り		雌穂長 (cm)	先 端 不 稔 長 (cm)	粒 列 数 (行)	試験年次
						剥皮雌穂重 (kg)	同左比 (%)				
十 勝 農 試	メロディスweet	1.7	8.10	7	9.9	1,032	106	15.0	2.3	15.4	1981~1986
	メローゴールド	1.1	8.9	63	9.6	974	100	15.7	3.5	13.7	
	リライアンス	1.6	8.10	64	9.7	1,030	106	15.4	2.3	16.9	
北 見 農 試	メロディスweet	2.1	8.10	0	9.1	1,098	98	18.1	0.6	16.1	1981~1986
	メローゴールド	1.0	8.9	22	8.30	1,115	100	19.2	1.0	13.9	
	リライアンス	3.0	8.9	41	9.2	1,099	99	19.2	0.7	17.1	
資 源 セ ン タ ー	メロディスweet	2.0	8.7	0	8.30	970	105	15.0	2.5	16.1	1985~1986
	メローゴールド	2.5	8.5	0	8.28	920	100	15.7	3.0	13.7	
	リライアンス	2.5	8.6	0	8.31	1,032	143	15.9	3.2	16.6	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励ならびに指導参考事項, 24-27(1987)。

(2) デューク (系統名 HS11号) 1991年
 登録番号：(北海道)とうもろこし(普)準輪交
 第39号

来歴 本品種はアメリカのアズグロシード社が育成
 し、ホクレン農業協同組合連合会が導入したもので、1988
 年から各種の試験を行い1991年に優良品種となった。ス
 weet種の単交配一代雑種で構成系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「G.C.B」や「コマンダー」並、初期生育
 は「G.C.B」と同等で、「コマンダー」より優れる。

2. 稈長は「G.C.B」より高く「コマンダー」並かや
 や低い。着雌穂高は「G.C.B」より高いが、「コマン
 ダー」より低く、耐倒伏性は「G.C.B」より明らか
 に強く、「コマンダー」並である。
3. 晩生の早に属する。絹糸抽出期は「G.C.B」並か
 1日程度早く、「コマンダー」に比べると4日程度早い。
 収穫時粒水分からみると収穫適期は「コマンダー」よ
 りやや早い。
4. 雌穂長は「G.C.B」、「コマンダー」より長く、平
 均一穂重は「G.C.B」より大きく、「コマンダー」並
 かやや小さい。粒列数は18行程度である。

- 5. すず紋病抵抗性は、これまでの品種に比べかなり強く、強に属する。
- 6. 収量は「G.C.B」より多く、「コマンダー」並かやや少ない。
- 7. 缶詰加工した時の品質は「ジュビリー」、「コマンダー」

よりやや劣る。

栽培適地と奨励態度

道央、十勝中部及びこれに準ずる地帯に適する。栽培上の注意は、一般栽培法に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1-5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫期 (月日)	10a 当り		雌穂長 (cm)	雌穂径 (cm)	粒列数 (行)	試験年次
						剥皮雌穂重 (kg)	同左比 (%)				
十勝農試	デューク	2.1	8.11	0	9.8	979	119	16.9	4.9	18.4	1988~1990
	G.C.B	1.9	8.11	24.1	9.7	829	100	16.8	4.3	11.8	
	コマンダー	2.8	8.13	1.1	9.12	1,084	131	16.3	5.1	18.7	
上川農試	デューク	2.7	8.6	0.8	8.29	1,530	141	18.7	4.9	19.2	1988~1990
	G.C.B	1.6	8.5	1.5	8.29	1,077	100	18.4	4.2	11.4	
	コマンダー	3.2	8.9	0	9.4	1,517	141	18.3	5.0	20.1	

注) G, C, Bはゴールデンクロスバンタムである。

参照 1) 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 33-35(1991)。

- (3) スイートメモリー (系統名 十生24号) 1993年
登録番号: (北海道)とうもろこし(普)北海道
交第22号(農水省)とうもろこし農林
交32号(種苗法)第4589号

来歴 本品種は、北海道立十勝農業試験場とホクレン農業協同組合連合会との共同研究により、1987年に「87:13」を母とし、「Tos12」を父として交配・育成したスイート種の単交配一代雑種で、1990年から「十生24号」の系統名で道内各試験機関で、各種の試験を行い1993年に優良品種となった。

特性概要

- 1. 発芽は「メロディスweet」並かやや遅く、「ページェント」並である。初期生育は「メロディスweet」並で「ページェント」に比べると同程度かやや優る。
- 2. 稈長は「メロディスweet」より高く、「ページェント」並かやや高い。着雌穂高は両品種より高く、耐倒伏性は「メロディスweet」より劣り、「ページェント」よりは明らかに優る。
- 3. 中生の中に属する。絹糸抽出期は「メロディスweet」より1日程度遅く、「ページェント」より1~2日

早い。収穫時粒水分からみた収穫適期は「メロディスweet」より1~2日遅く、「ページェント」並かやや早い。

- 4. 雌穂長は両品種より長く、雌穂先端の不稔割合は低い。雌穂径や穂芯の太さは両品種並で、粒列数は17行程度である。
- 5. 剥皮雌穂重は「メロディスweet」より多く、「ページェント」に比べると同程度かやや多い。
- 6. すず紋病抵抗性は「メロディスweet」や「ページェント」並に弱く、ごま葉枯病抵抗性は他の品種よりも弱い。
- 7. 缶詰加工した時の品質は「ジュビリー」、「ページェント」並である。

栽培適地と奨励態度

道央、十勝中部、網走内陸部及び道南に適し、同地域の「ページェント」に代わる加工用品種として普及させる。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずるが、気象の不良な年や密植栽培では無効・不稔雌穂が発生することがあるため、適正な栽植密度を守り、気象条件の不良な地帯での作付けは避ける。

試験場名	品種名	初期生育 (1-5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫期 (月日)	10a 当り		穂芯長 (cm)	雌穂長 (cm)	粒列数 (行)	試験年次
						剥皮雌穂重 (kg)	同左比 (%)				
十勝農試	スイートメモリー	1.7	8.4	5.9	8.31	1,183	121	18.9	16.5	16.6	1989~1992
	メロディスweet	1.9	8.3	0.2	8.31	964	100	17.4	14.7	15.8	
	ページェント	2.0	8.6	35.2	9.2	1,216	127	19.8	16.3	17.5	

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫期 (月日)	10a 当り		穂芯長 (cm)	雌穂長 (cm)	粒列数 (行)	試験年次
						剥皮雌穂重 (kg)	同左比 (%)				
北見農試	スイートメモリー	2.6	8.11	16.1	9.8	1,284	104	19.3	17.7	17.0	1990~1992
	メロディスweet	2.6	8.11	1.1	9.6	1,240	100	18.1	16.2	16.0	
	ページェント	2.4	8.12	43.9	9.10	1,280	103	19.5	16.7	18.0	
道南農試	スイートメモリー	2.2	7.25	0	8.20	1,350	122	20.3	18.2	17.1	1990~1991
	メロディスweet	2.2	7.25	0	8.20	1,104	100	18.1	15.8	16.2	
	ページェント	1.5	7.25	10.4	8.20	1,286	117	20.3	17.4	18.5	

参照 1) 北海道農政部編, 平成5年普及奨励ならびに指導参考事項, 25-29(1993)。

(4) マーキス (系統名 HS14号) 1994年

登録番号: (北海道)とうもろこし(普)準輸交
第48号

来歴 本品種はアメリカのアズグロシード社が育成し、ホクレン農業協同組合連合会が導入し1991年から各種の試験を行い、1994年に優良品種となった。スイート種の単交配の一代雑種で、構成系統名は不明である。

特性概要

1. 発芽は「メロディスweet」や「リワード」並か1日程度早く、初期生育は両品種よりやや優れる。
2. 早生の中に属する。絹糸抽出期は「リワード」並か1日程度遅く、「メロディスweet」より5日程度早い。収穫時の粒水分からみると収穫適期は「リワード」よりやや遅い。
3. 稈長は「リワード」並で、着雌穂高は「メロディス

weet」より高く、「リワード」並かやや高い。

4. 耐倒伏性は「メロディスweet」より弱く、「リワード」並である。
5. 平均一穂重は「メロディスweet」や「リワード」よりやや大きく、雌穂長は両品種よりやや長く先端不稔は少ない。粒列数は「メロディスweet」よりやや多く、「リワード」より少ない。
6. 剥皮雌穂重は「メロディスweet」より多く、「リワード」並かやや多い。
7. すず紋病抵抗性は「メロディスweet」より強く、「リワード」並かやや強い。
8. 缶詰加工した時の品質は「メロディスweet」、「リワード」より優れる。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。栽培上の注意は、耐倒伏性が劣るため、密植は避ける。その他は一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1~5)	絹糸抽出期 (月日)	倒伏 (%)	収穫期 (月日)	10a 当り		穂芯長 (cm)	雌穂長 (cm)	粒列数 (行)	試験年次
						剥皮雌穂重 (kg)	同左比 (%)				
十勝農試	マーキス	2.1	8.6	22.9	9.6	860	101	17.4	15.8	15.4	1991~1993
	メロディスweet	2.3	8.12	0.2	9.11	847	100	16.3	13.2	16.1	
	リワード	2.2	8.6	23.6	9.6	833	99	17.9	14.1	17.6	
上川農試	マーキス	1.5	7.29	0	8.24	1,218	106	19.0	18.7	15.7	1991~1993
	メロディスweet	2.0	7.31	0	8.25	1,153	100	17.7	15.6	15.8	
	リワード	2.0	7.27	0	8.22	1,201	105	18.8	16.0	18.1	
北見農試	マーキス	2.6	8.15	12.0	9.14	1,212	102	18.3	17.4	16.1	1991~1993
	メロディスweet	2.2	8.19	0	9.18	1,186	100	18.1	16.3	15.8	
	リワード	1.9	8.13	25.0	9.11	1,136	97	18.7	15.9	17.9	

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 52-55(1994)。

(5) サマースイート (系統名 十生26号) 1995年
 登録番号: (北海道)とうもろこし (普) 北海道
 交第23号 (農水省) とうもろこし農林
 交36号 (種苗法) 出願中

来歴 本品種は、北海道立十勝農業試験場とホクレン
 農業協同組合連合会との共同研究により、1987年に
 「Tos10」を種子親とし、「87:14」を花粉親として交配・
 育成したスイート種単交配の一代雑種で、1989年より「K
 8806」、1991年から「十生26号」の系統名で各種の試験を
 行い、1995年に優良品種となった。

特性概要

1. 発芽は「メロディスイート」並か1日早く「スイートメモリー」より1~2日早く、初期生育は「メロディスイート」や「スイートメモリー」に比べ優る。
2. 早生の早に属する。絹糸抽出期は「メロディスイート」より1~2日、「スイートメモリー」より2~3日早い。収穫適期は「メロディスイート」より2日程度早い。
3. 稈長は「メロディスイート」やや低く、着雌穂高は「メロディスイート」より高く、「スイートメモリー」

よりやや低い。耐倒伏性は「メロディスイート」より劣り、「スイートメモリー」並である。

4. 穂芯長は「メロディスイート」より長く、雌穂長は「スイートメモリー」並であり「メロディスイート」より長い。粒列数は17~18行である。
5. 剥皮雌穂重は「メロディスイート」や「リワード」より明らかに多く、「スイートメモリー」に比べると道東では多く、道央・道南では同等かやや少ない傾向である。
6. すず紋病抵抗性は「ジュビリー」よりやや強く、「メロディスイート」より弱い。ごま葉枯病抵抗性は「ジュビリー」並で、「メロディスイート」より弱く「スイートメモリー」より強い。
7. ホールカーネル加工の品質は、粒色が優れ、香味、食感「メロディスイート」並で「リワード」より優り、「スイートメモリー」や「ジュビリー」に比べるとやや劣る。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。栽培上の注意は一般栽培法に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1-5)	絹糸抽出期 (月日)	収穫期 (月日)	倒伏 (%)	10a 当り		穂芯長 (cm)	雌穂長 (cm)	粒列数 (行)	試験年次
						剥皮雌穂重 (kg)	同左比 (%)				
十勝農試	サマースイート	1.5	8.6	9.3	1.6	1,038	119	19.2	15.5	17.6	1991~1994
	メロディスイート	2.3	8.8	9.5	0.0	874	100	16.7	13.3	16.1	
	スイートメモリー	1.8	8.8	9.5	0.3	954	109	17.8	14.8	16.3	
	リワード	2.1	8.3	9.1	31.7	850	97	17.9	14.3	17.8	
上川農試	サマースイート	1.6	7.29	8.22	0.0	1,238	105	19.7	16.6	17.2	1991~1994
	メロディスイート	1.8	7.30	8.23	0.0	1,176	100	17.5	15.7	16.1	
	スイートメモリー	1.5	8.1	8.25	0.4	1,287	109	18.9	17.2	16.4	
北見農試	サマースイート	1.5	8.14	9.11	5.0	1,330	110	19.5	17.2	17.6	1991~1994
	メロディスイート	2.4	8.15	9.13	0.0	1,212	100	18.4	16.7	15.9	
	スイートメモリー	2.2	8.16	9.14	2.1	1,287	106	19.1	17.3	16.4	
中央農試	サマースイート	1.9	8.6	8.31	0.2	1,393	109	19.9	16.9	17.3	1991~1994
	メロディスイート	2.3	8.7	9.1	0.0	1,278	100	17.7	15.8	15.5	
	スイートメモリー	2.0	8.7	9.2	0.2	1,662	130	19.5	18.2	16.2	

参照 1) 北海道農政部編, 平成7年普及奨励ならびに指導参考事項, 14-18(1995)。

(6) スイートエール (系統名 十生27号) 1995年
 登録番号: (北海道)とうもろこし (普) 北海道
 交第24号 (農水省) とうもろこし農林
 交37号 (種苗法) 出願中

来歴 本品種は、北海道立十勝農業試験場とホクレン
 農業協同組合連合会との共同研究により、1986年に「86:
 206」を種子親とし、「Tos14」を花粉親として交配・育成
 したスイート種の単交配一代雑種である。1988年より「K
 8703」、1992年からは「十生27号」の系統名で各種の試験

を行い、1995年に優良品種となった。

特性概要

1. 発芽は「メロディスweet」や「リワード」並かやや早く、初期生育は「メロディスweet」や「リワード」よりやや優る。
2. 早生の中に属する。抽出期は「メロディスweet」より4日程度早く、「リワード」に比べると1日遅い。収穫適期は「メロディスweet」より6日程度早く、「リワード」並である。
3. 稈長と着雌穂高は「リワード」並で、「メロディスweet」に比べ稈長は低く、着雌穂高は高い。耐倒伏性は「メロディスweet」に比べ劣るが、「リワード」よりは明らかに優る。
4. 穂芯長は「メロディスweet」並かやや長く、「リワ

ド」より短い。雌穂長は「リワード」並で「メロディスweet」よりやや長い。粒列数は約17行である。

5. 剥皮雌穂重は「メロディスweet」より多く、「リワード」よりやや多い。
6. すず紋病抵抗性は「メロディスweet」並かやや強く、「リワード」や「メロゴールド」に比べるとやや弱い。こま葉枯病抵抗性は「メロディスweet」より弱く、「リワード」より強い。

7. ホールカーネル加工の品質は、色、香味、食感は「ジュビリー」と同程度で、「リワード」より明らかに優る。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適し、「リワード」に置き換えて普及し、加工用sweetコーンの高品質・安定多収に寄与する。栽培上の注意は、一般栽培基準に準ずる。

試験場名	品種名	初期生育 (1-5)	絹糸抽出期 (月日)	収穫期 (月日)	倒伏 (%)	10a 当り		穂芯長 (cm)	雌穂長 (cm)	粒列数 (行)	試験年次
						剥皮雌穂重 (kg)	同左比 (%)				
十勝農試	sweetエール	2.2	8.5	9.2	1.4	912	101	17.1	14.4	16.8	1992~1994
	メロディスweet	2.2	8.9	9.7	0.2	905	100	16.7	13.3	16.3	
	リワード	2.2	8.4	9.2	36.3	838	93	17.6	14.4	17.9	
上川農試	sweetエール	2.1	7.28	8.21	0.0	1,239	105	18.1	16.8	17.2	1992~1994
	メロディスweet	2.1	8.1	8.26	0.0	1,183	100	17.6	15.7	16.0	
	リワード	1.9	7.27	8.21	0.0	1,172	99	19.0	16.4	17.9	
北見農試	sweetエール	1.9	8.12	9.9	1.0	1,216	104	17.5	15.9	17.2	1991~1994
	メロディスweet	2.6	8.17	9.16	0.0	1,172	100	18.4	16.6	15.9	
	リワード	2.4	8.12	9.8	29.3	1,185	101	19.4	16.0	18.1	
中央農試	sweetエール	2.0	8.4	8.29	1.7	1,395	108	18.1	15.7	16.5	1991~1994
	メロディスweet	2.3	8.8	9.4	0.0	1,297	100	17.4	15.3	15.3	
	リワード	1.9	8.2	8.27	13.4	1,252	97	18.5	15.1	17.4	

参照 1) 北海道農政部編、平成7年普及奨励ならびに指導参考事項、18-21(1995)。

6. 大豆

- (1) スズマル (系統名 中育19号) 1988年
 登録番号：(北海道) 大豆北海道第30号
 (農水省) だいで農林89号
 (種苗法) 第2043号

来歴 本品種は、道央地方に適する納豆用小粒種の育成を目標として、1975年に北海道立中央農業試験場において「十育153号」を母とし、「納豆小粒」を父として人工交配し、その雑種後代から育成した納豆用品種で、1982年より「中系108号」、1984年から「中育19号」の系統名で各種の試験を行い、1988年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。